

People Who Live in Glass Houses

－ ことわざのもじり (4) －

豊田 一男*

People Who Live in Glass Houses

－ Parodies of Proverbs concerning People and Their Lives －

TOYODA Kazuo *

Introduction

This is a collection of parodies of proverbs concerning people and their lives. There are a large number of proverbs concerning people and their lives. In this paper the present writer takes up the following proverbs that are most frequently parodied or punned:

- ・ It is a wise child that knows his own father.
- ・ Children should be seen and not heard.
- ・ Early to rise and early to bed makes a man healthy, wealthy and wise.
- ・ A man is known by the company he keeps.
- ・ To err is human, to forgive, divine.
- ・ He who hesitates is lost.
- ・ Love is blind.
- ・ 'Tis better to have loved and lost, than never to have loved at all.
- ・ The course of true love never did run smooth.
- ・ Marry in haste and repent at leisure.
- ・ No man is a hero to his valet.
- ・ A friend in need is a friend indeed.
- ・ People who live in glass houses shouldn't throw stones.

はじめに

筆者は『筑波学院大学紀要』第1集(2006)において、ことわざ“Old soldiers never die; they just fade away.”のもじりを“Old Xs

Never Die”と題して、Xの位置にくる専門職をアルファベット順に accountants から wrestlers まで115種取り上げた。

第2集(2007)においては、“Money Matters”と題して金銭に関わることわざとその

* 情報コミュニケーション学部国際交流学科、Tsukuba Gakuin University

もじりを扱った。第3集(2008)においては、“Cats and Dogs”と題して、動物、鳥に関することわざのもじりを扱った。

本稿は「人とその生活」とでも言うべき事柄に関することわざとそのもじりを取り上げる。キーワードとして「子供」、「父母」、「大人」、「恋」、「失恋」、「結婚」、「離婚」、「友人」などが絡むものを扱う。

本稿では、ことわざ、そのもじりと日本語訳、そして必要に応じて、コメントを加えるという形で話を進める。

[1] It is a wise child that knows its own father.

(自分の父親を知っている子は賢い子だ。)

ことわざの元来の意味は「父親と称している人が本当に自分の父親であるという確証はない。それにもかかわらず、父親であると知っている子は賢い子だ」ということ。しかし、現代では日本語のことわざ「親の心、子知らず」の意味で用いられるようである。

(1) It is a wise father that knows his own child.

(自分の子供を知っているのは賢い父親だ。)

このもじりは、(1)「子供が本当に自分の子であることを知っている父親は少ない。知っているのは母親だけだ」(2)「自分の子のことをよく知っている父親はいない」の意味である。(戸田(2003))

(2) It's a wise child who knows less than his own father.

(自分の父親より知っていることが少ない子供は賢い子だ。)

(3) It's a wise horse that knows its own fodder.

(自分の飼葉(かいば)を知っているのは賢い馬だ。)

Father と fodder の(苦しい)しゃれに基

づくもじり。

(3) Plagiarism—A wisecrack that knows its own father.

(剽窃—自分の父親を知っている生意気なせりふ。)

剽窃者は盗んだ原典[父親]を当然知っていて自分のせりふを装う。

(4) It's a wise child who resembles a wealthy relative.

(金持ちの親戚に似ているのは賢い子だ。)

金持ちの親戚に「あなたの子だ」と金をせびりに行けるからである。

[2] Children should be seen and not heard.

(子供は人前に出るのはいいが話をしてはいけない。)

ことわざの意味は「子供は年長者の前で話を聞いているのは良いが、口を挟んではならない」ということ。まともな家庭の子供のしつけに関することわざである。

(1) “Little boys should be seen, and not heard,” as the boy said when he could not recite his lesson.

(「幼い少年は人前に出るのはいいが話をしてはいけない」とは授業の暗唱ができなかったときの少年のせりふ。)

(2) Children should neither be seen nor heard from—ever again. (W.C. Fields)

(子供は目に見えても便りが聞かれてもいけない—二度と再び。)

やっかいな子どもたちはさっさと家を出で、便りもくれるな、ということ。

(3) Mother heard her children scream. So she pushed them in the stream saying, as she pushed the third, ‘Children should be seen, not heard.’

(母親は子供たちが叫び声を上げるのを

- 聞いた/そこで彼女は彼らを川に突き落とすし、3人目を押しながら言った/「子供は人前に出るのはいいが声を出してはいけない。」
- (2) の親よりさらにひどい親である。
- (4) Pedestrian: a person who should be seen, and not hurt.
(歩行者とは「見えるのはいいが傷つけてはいけない人」)
Heard と hurt のしゃれにもじり。
- (5) Women should be obscene and not heard. (Groucho Marx)
(女性のみだらで口を出さないのはいい。)
Be seen と obscene のしゃれが効いている。
- (6) When Canada's Prime Minister, Pierre Trudeau, appeared to have mouthed an expletive in Parliament, it was reported that he prefers to be obscene and not heard!
(カナダの首相ピエール・トルドーが議会ででのしり言葉を発したと思われたとき、彼は聴いてもらうより卑猥なせりふを好むと報道された。)
(5) と同様に be seen と obscene のしゃれが効いている。
- (7) Mother skunk to child: "Children should be smelled, not heard."
(母親のスカンクが子供に「子供は臭いを出すのはいいが、口を出すのはだめ。」)
- (8) Unlike children, puns should be heard, not seen. (Paul Jennings (1980))
(子供とはちがいで、しゃれは聞くもので、見るものではない。)
しゃれは音声に頼った言葉遊びであることを言い得ている。
- (9) Children should be seen and not ... spanked.
(子供は人前にいるのはいいが、しりをひっぱたかれるべきではない。)
- (10) Fathers should be neither seen nor heard; that is the only proper basis for family life. (Oscar Wilde)
(父親は人前にも出ず、意見も聞かれなないのはいい。それこそが家庭生活の好ましい基盤だ。)
父親不在が家庭の幸福とはいかにも皮肉屋のワイルドのせりふらしい。
- (11) Celery: A vegetable which should be seen and not heard.
(セロリ：姿を見るのはいいが、音は聞きたくない野菜。)
セロリを囁む音はそれほど不快であろうか。
- [3] **Early to rise and early to bed makes a man healthy, wealthy and wise.**
(早寝早起きは人を健康にし、富ませ、そして賢くさせる。)
Benjamin Franklin の *The Way to Wealth* (『富に至る道』) で有名になったと言われることわざ。
- (1) Early to bed and early to rise probably indicates unskilled labour.
(早寝早起きはほとんど未熟練労働を意味する。)
早寝早起きして長時間働かないと未熟練労働者は生きていけない。
- (2) Early to bed and early to rise take most of the zing out of the living. (Leo Rosten)
(早寝早起きは生活からほとんどの活気を奪う。)
- (3) Early to rise and early to bed makes a girl healthy, wealthy, but socially dead.
(早寝早起きは女の子を健康に、裕福にするが、社会的には死んだ状態にする。)
- (4) Early to rise and early to bed
Makes a male healthy and wealthy and dead. (James Thurber)
(早寝早起きは男を健康に金持ちにして

- 死んだ状態にする。)
- (5) Early to bed and early to rise, and you'll meet very few of our best people. (Ade)
(早寝早起きしなさい、そうすれば最良の友人のほとんどに出会えないだろう。)
(2)～(5) はいずれも、遊んだり、人と交際する時間がなくなるので、生き甲斐、活気を失い、死んだも同然になると言っている。
- (6) Early to rise and early to bed is the best way to read the morning paper in peace and quiet.
(早寝早起きは朝刊を穏やかに静かに読む最良の方法だ。)
- (7) He who is not healthy at twenty, wealthy at forty, or wise at sixty will never be healthy, wealthy, or wise.
(二十歳で不健康、四十で金持ち、六十で賢いなどという人は決して健康にも金持ちにも賢明にもならない。)
- (8) Early to rise and early to bed makes a man healthy (if he exercises), wealthy (if he strikes oil) and wise (if he has brains).
(早寝早起きは人を(運動すれば)健康にし、(石油を掘り当てれば)金持ちにし、(頭が良ければ)賢くする。)
- (9) Early to rise and early to bed—till you make enough money to do otherwise.
(早寝早起きしなさい—そうしないで済むだけの金儲けをするまでは。)
- (10) Early to rise and early to bed makes Jack a dull boy.
(早寝早起きは男の子を馬鹿にする。)
All work and no play makes Jack a dull boy.
(勉強ばかりして遊ばないと子供は馬鹿になる) ということわざと表記のことわざのブレンド。
- (11) Early to bed and early to rise gets the worm.
(早寝早起きは虫を捕まえる。)

The early bird catches the worm. (早起き鳥は虫を捕える。) ということわざと表記のことわざのブレンド。

[4] **A man is known by the company he keeps.**

(人は交わる仲間によって分る。)

日本語のことわざ「善悪は友を見よ」に当たる。

- (1) A man is known by the company he keeps avoiding.
(人はその人が避け続ける仲間に分かる。)
- (2) "Father."
"Well, what is it?"
"It says here, 'A man is known by the company he keeps.' Is that so, father?"
"Yes, yes, yes."
"Well, father, if a good man keeps company with a bad man, is the good man bad because he keeps company with the bad man, and is the bad man good because he keeps company with the good man?"
(「お父さん」「それは何だい」「ここには「人は交わる仲間によって分る」と書いてあるけど、そうなの、お父さん?」「そうだよ、その通りだ」「じゃあ、お父さん、良い人は悪い人と付き合うから悪いの?悪い人は良い人と付き合うから良い人なの?」)
- (3) A driver is known by the fenders he keeps.
(運転者は自動車に付けているフェンダーで分る。)
フェンダーの泥の付き具合、ぶつけた傷で人柄が分る、ということ。
- (4) A man is known by the company he thinks nobody knows he's keeping.
(人は誰も付き合っていることを知らないと思っている仲間に分る。)
- (5) A man is judged by the company he keeps,

and a woman by the company she has just left.

(男は付き合う仲間で判断され、女は見捨てたばかりの仲間で分る。)

[5] **To err is human, to forgive, divine.**

(あやまちは人の常、許すは神のわざ。)

「漱石は「ただ賢きはならず、善きを加えよ、誤るは人、赦すは神。」と訳している。」(戸田 (2003))

(1) **To err is human; to blame it on someone else is politics.**

(あやまちは人の常、それを他人のせいにするが政治。)

(2) **To err is human, to blame it on someone else is doubles.**

(あやまちは人の常、それを他人のせいにするのがダブルス。)
テニスでもバドミントンでも同じこと。

(3) **To sing is human... to forgive, divine.**

(歌うのは人の常 ... 許すは神のわざ。)
下手な歌は許せないが、神は許してくださる。

(4) **To err is human, to forgive, supine.**

(あやまちは人の常、許すは怠惰。)
Divine と supine のしゃれで、韻を踏んでいる。

(5) **To err is human, but it feels divine.** (Mae West)

(過ちは人の常 - でも過ちって素敵な感じ。)(加島 (1986))

(6) **To err is human; to remain in error is stupid.**

(まちがいは人の常、まちがったままではいるのは愚かなこと。)

(7) **To err is Truman.** (Walter Winchell)

(あやまちはトルーマンだ。)
合衆国第33代大統領 Harry S. Truman (1884-72) の政策批判。Walter Winchell (1897-1972) はアメリカの新聞・ラジオ

のコメンテーター。

(8) **To err is human, but to really foul things up requires a computer.**

(あやまちは人の常、しかし本当に世の中を混乱させるにはコンピューターが必要だ。)

コンピューターは人を誤らせる恐れがある。

(9) **To eat is human; to digest, divine.** (Mark Twain)

(食べるのは人、消化するのは神のわざ。)
人が何を食べても、神が消化してくださる。

(10) **To err is human—to keep it quiet is not.**

(あやまちは人の常—それを黙っているのは人の常ではない。)
他人のあやまちは黙ってられないのが人の常。

(11) **To err may be human, but to admit it isn't.**

(あやまちは人の常かもしれない、しかしそれを認めるのは人の常ではない。)
自分のあやまちは認めるのは甚だ難しい。

(12) **To err is human; to forgive, unusual.** (Anon.)

(あやまちは人の常、許すはまれなこと。)
自分のあやまちはさておき、他人のあやまちは許せないのが人の常。

[6] **He who hesitates is lost.**

(ためらう者は失敗する。)

ことわざの意味は「(1) 異性からのプロポーズにためらっていると、相手は目の前から消えていく。(2) 素早い決然たる行動は成功につながる」ということ。(戸田 (2003))

(1) **He who hesitates is a damned fool.** (Mae West)

(ためらうやつは大ばか者だ。)

Mae West (1893-1980) は女優で脚本家。
当時のセックス・シンボルであった人。

- (2) He who hesitates is lost—unless he's a bachelor.

(ためらう男は失敗する—独身でないかぎり。)

- (3) He who hesitates is lost—except a bachelor.

(ためらう男は失敗する—独身者を除いて。)

(2)、(3) とも、独身者は結婚をためらっても失敗することはない。なぜなら、結婚することが失敗につながるのだから、と言っている。

- (4) Nowadays, he who hesitates is cost-conscious.

(今日、ためらう男は費用を意識している。)

結婚式には金がかかり、結婚しても金がかかる。当然費用を意識せざるを得ない。

- (5) He who hesitates is not only lost, but miles from the next exit. (Anon.)

(ためらう男は道に迷うだけでなく次の出口まで何マイルもある。)

高速道路でぐずぐずしていると、目的の出口を通り越してしまう。

[7] Love is blind.

(恋は盲目。)

- (1) Love is blind—and marriage is an eye opener.

(恋は盲目—結婚すれば目が覚める。)

これ自体がほとんどことわざになっている。

- (2) Love is blind—and when you get married you get your eyesight back.

(恋は盲目—結婚すれば視力は戻る。)

(1) と同じ「こころ」。

- (3) Love is blind, but your mother-in-law isn't.

(恋は盲目、しかし義理の母親は違う。)
義理の母親は娘の相手の男を見損なうことはない、ということ。

- (4) An engagement ring proves that love is not blind, at least not stone blind.

(婚約指輪は恋は盲目だが少なくとも全盲ではないことを証明している。)

Stone には precious stone (宝石) の意味がある。婚約指輪だけはしっかり良いものを買わせる、ということ。

- (5) It's a good thing that love is blind; otherwise it would see too much.

(恋が盲目であるのはいいことだ、さもないと見え過ぎてしまうだろう。)

見え過ぎると結婚などできない。

- (6) "If you love work, why don't you find it?"
"Alas, lady, love is blind."

(「仕事を愛しているなら、見つけられればいいでしょう」「悲しいことに、愛は盲目なんです。」)

怠け者のせりふ。

- (7) Love may be blind, but jealousy sees too much.

(恋は盲目かもしれないが、嫉妬は見え過ぎてしまうのだ。)

- (8) Never kiss at the garden gate. Love is blind, but the neighbours ain't.

(庭の入口でキスしてはいけない。恋は盲目でも隣人は違う。)

隣人はちゃんと見ている。

- [8] 'Tis better to have loved and lost, than never to have loved at all.

(愛したことがまったくないより愛して失った方がましだ。)

- (1) 'Tis better to have loved and lost, than never to have loved at all—better for the jeweler, florist, and confectioner.

(愛したことがまったくないより愛して失った方がましだ—宝石商、花屋、菓子

- 屋にとっては。) 恋をしてくれないと商売が成り立たない。
- (2) 'Tis better to have loved and lost than to have loved and married.
(愛して失った方が愛して結婚するよりまし。)
- (3) Better to have loved and lost than spend your whole damned life with him.
(愛して失った方がうんざりする全人生を彼と過ごすよりまし。)
- (4) Bachelor: a chap who believes it's much better to have loved and lost than to have to get up for the 2 a.m. feeding.
(独身者：愛して失った方が午前2時に起きて赤ん坊に乳を飲ませるよりましと信じる男。)
- (5) 'Tis better to have loved and lost than to do the homework for three kids.
(愛して失った方が3人の子供の宿題をやるよりまし。)
- (6) It is better to have loafed and lost than never to have loafed at all. (James Thurber)
(ぶらぶら過ごして失う方が全くぶらぶら過ごさなかったよりまし。)
Loved と loafed のしゃれになっている。
- (7) Hollywood motto: 'Tis better to have loved and lost than never to have had any publicity at all.
(ハリウッドのモットー：愛して失った方が全く知られなかったよりまし。)
人気落ち目になると恋のスキャンダルで再び人に知れ渡る。
- (8) It's better to go broke than never to have loved at all.
(全く愛さなかったよりすっからかんになった方がまし。)
- (9) 'Tis better to have loved and lost, than never to have lost at all.

(Samuel Butler, *The Way of All Flesh*)
(愛して失った方まったく失わなかったよりましである。)

- (10) 'Tis better to have loved a short girl than never to have loved a tall.
(背の低い人を愛した方が背の高い女性を愛さなかったよりまし。)
A tall (girl) と at all のしゃれに基づくもの。
- (11) 'Tis better to have punned and be groaned at than never to have punned at all.
(駄じゃれを言っとうめかれる方が駄じゃれをまったく言わなかったよりまし。)
駄じゃれ好き (punster) のせりふ。

[9] **The course of true love never did run smooth.**

(真の愛がすんなりと進んだことはない。)

出典は Shakespeare の『夏の夜の夢』 (*A Midsummer Night's Dream*)

- (1) True love never runs smoothly. It pulls over to the side and parks.
(真の愛はすんなりとは行かない。道の端に寄せて駐車しなければならない。)
- (2) The course of true love never runs smooth—except when it's self-love.
(真の愛はすんなりとは行かない—自己愛のとき以外は。)
- (3) The course of true love never runs smooth—it usually leads to marriage.
(真の愛はすんなりとは進まない—通常それは結婚に進む。)
そして、それから先もスムーズには行かない。

[10] **Marry in haste and repent at leisure.**

(あわてて結婚しゆっくり後悔せよ。)

- (1) Advice given to a rather lazy girl: 'Marion,

haste and repent at leisure!

(少し怠惰な女の子への忠告：「マリオン、あわててゆっくり後悔しなさい。』

Marion と marry の駄じゃれ。

- (2) A gossip is a person who listens in haste and repeats at leisure.

(おしゃべりとはあわてて聴いてゆっくり繰り返す人。)

「ここだけの話」を繰り返す。

- (3) Men love in haste, but they detest at leisure. (Lord Byron)

(男はあわてて愛するがゆっくり大嫌いになる。)

- (4) Marry in haste, and repent at your mother-in-law.

(あわてて結婚して義理の母の家で後悔せよ。)

母親を見れば妻の将来が見える。まず相手の母親を観察せよ、ということ。

- (5) Used car: something you buy in haste and repaint at leisure.

(中古車：あわてて買ってゆっくり塗り直すもの。)

最近では塗り直す必要のない美しい中古車があふれている。Repent と repaint のしゃれが言いたかったのである。

- (6) In this crazy, mixed-up era, people don't repent even at leisure.

(この狂った混乱した時代では、人々はゆっくり後悔すらしない。)

後悔している暇もない、ということ。

[11] No man is a hero to his valet.

(どんな人もその召使にとっては英雄ではない。)

社会的にどんなに高い地位にある人でも、召使から見れば、ただの人にすぎない、という意味のことわざ。

- (1) No man is a hero to his mother-in-law.

(義理の母親にとってどんな男も英雄で

はない。)

- (2) No woman is a beauty to her maid.

(お手伝いにとってはどんな女性も美人ではない。)

- (3) No author is a hero to his proof-reader.

(校正係にとってはどんな作家も英雄ではない。)

日本語では「校正 [後世] 恐るべし」という。

- (4) Every man is a hero, except those who have valets.

(あらゆる男は英雄だ、ただし召使のいる男は別。)

- (5) Concerning the statement that no man is a hero to his valet: This is not because the hero is no hero, but because the valet is a valet. (Friedrich Hegel)

(どんな人もその召使にとっては英雄ではないという意見に関して：これは英雄が英雄でないからではなく、召使が召使だからである。)

[12] A friend in need is a friend indeed.

(まさかの友こそ真の友。)

In need は「金に困っている」の意味であるから、a friend in need は「金に困っている友」の意味のはずだが、ことわざでは「金に困っている時に助けてくれる友」の意味で用いられる。しかし、もじりの世界では圧倒的に前者の意味で使われる。in need と indeed はしゃれになっている。

- (1) A friend in need is no friend of mine.

(まさかの友は私の友ではない。)

- (2) A friend in need is a friend you don't need.

(まさかの友は必要のない友。)

- (3) A friend in need is a friend to keep away from.

(まさかの友は近づくべきでない友である。)

- (4) A friend in need is a friend to avoid.

- (まさかの友は避けるべき友だ。)
- (5) A friend in need is a pest indeed.
(まさかの友はまったく厄介者である。)
- (6) "You heard the saying: A friend in need is a friend indeed?"
"Yes, stranger."
(「まさかの友こそ真の友」ということわざを聞いたろう」「聞きましたとも、見知らぬお方」)
- (7) A friend not in need is a friend indeed.
(困っていない友こそ真の友である。)
- (8) A friend in power is a friend lost. (Henry Adams)
(権力を持つ友はいなくなった友である。)
権力の座に着くと昔の友達を見向きもしない、ということ。

[13] People who live in glass houses shouldn't throw stones.

(ガラス張りの家に住む者は石を投げてはいけない。)
自分の欠点、過失などを棚に上げて他人を批判してはいけない、ということ。

- (1) *Teacher*: Finish off this sentence. People who live in glass houses...
Sarah: Should not undress with the light on.
(先生「次の文を完成させなさい。「ガラス張りの家に住む者は...」」セアラ「「明かりをつけたまま服を脱いではいけない」です。」)
- (2) People who live in glass blouses shouldn't show bones.
(ガラスのブラウスを着て生活する人は骨を見せてはいけない。)
Houses と blouses のしゃれ。
- (3) People who live in glass houses shouldn't throw parties.
(ガラスの家に住む人はパーティーをし

- てはいけない。)
Throw には「(パーティーなどを) 行う」の意味がある。
- (4) People who live in glass houses should undress in the dark.
(ガラスの家に住む人は暗闇で服を脱ぐべきである。)
- (5) People who live in glass houses make the most interesting neighbors.
(ガラスの家に住む人は最も興味ある隣人になる。)
- (6) People who live in glass houses should be fully insured.
(ガラスの家に住む人は十分保険を掛けておくべきだ。)
- (7) People who live in glass houses should be exhibitionists.
(ガラスの家に住む人は露出狂のはずだ。)
- (8) People who live in glass houses should pull down the blinds.
(ガラスの家に住む人はブラインドを下げるべきだ。)
- (9) People who live in glass houses should take baths in the basement.
(ガラスの家に住む人は地階で入浴すべきだ。)
- (10) People who live in glass houses always have to answer the door.
(ガラスの家に住む人はいつも玄関に応答に出なければならない。)
居留守が使えない。
- (11) A gardener who was brought to trial for stealing a chair belonging to the king and hiding it in his greenhouse was sentenced to jail on the ground that people who live in glass houses shouldn't stow thrones.
(王様の椅子を盗みそれを自分の温室に隠したために裁判にかけられた庭師が牢屋入りの宣告を受けたのはガラスの家に

住む人は玉座をしまい込んではいならないという理由だった。)

- (12) The chieftain of an African tribe had died, and his heavy and elaborate throne was hoisted to the top of his lofty grass-thatched royal hut in order to keep it out of the way until his heir should reach the age when he might properly sit upon it in full adult regalia.

Unfortunately, the young heir was playing under the place where the throne had been stowed for safekeeping at just the moment when the rope broke. The falling throne killed the boy.

Moral: People who live in grass houses shouldn't stow thrones.

(あるアフリカの種族の族長が死に、重い、手の込んだ作りの王座が高い草ぶきの族長の小屋の天辺に引き上げられたのは、跡取りが完全な成人の王位の印をつけて正当に王座につく年齢に達するまで手の届かない所にしまって置くためだった。

不幸なことに、幼い後継ぎが王座が保管のためにしまい込まれていた場所の下で遊んでいるとちょうどその時王座を縛っていた綱が切れた。落ちてきた王座のために少年は死んでしまった。

教訓：草ぶきの家に住む人は王座をしまい込むな。)

(11) (12)ともthrow stonesとstow thronesのしゃれが落ち (punch line) になっている。

終わりに

そもそも、ことわざは人の人生、生活に関して、その指針、教訓、風刺などを扱うものである。本稿で取り上げたものはそのほんの一部にすぎない。いずれにせよ、ことわざが

ジョーク集、名言集の中に登場することからも英米人の生活の中にことわざが今も生きていることが垣間見える。ことわざのもじりで笑いを誘うジョークの一形式を今後も追いつけるつもりでいる。

参考文献

- 大塚高信・高瀬省三 [編] (1995) 『英語ことわざ辞典』 (三省堂)
- 奥津文夫 (1978) 『ことわざ・英語と日本語』 (サイマル出版会)
- 奥津文夫 (2000) 『日英ことわざの比較文化』 (大修館書店)
- 加島祥造 (1986) 『英語の中の常識』 (上) (下) (大修館)
- 三省堂編修所 (2006) 『新明解 故事ことわざ辞典』 (三省堂)
- 杉田 敏 (2004) 『人生を考える英語 - 名言・迷句 このひと言196』 (プレジデント社)
- 曾根田憲三・ケネス・アンダーソン (1987) 『英語ことわざ用例辞典』 (大学書林)
- 田中安行 (監修) (2002) 『音読したい英語名言300選』 (中経出版)
- 戸田 豊 (2003) 『現代英語ことわざ辞典』 (リーベル出版)
- 外山滋比古 (1984) 『英語ことわざ集』 (岩波書店)
- 松野道男 (1985) 『ことわざの文化人類学』 (研究社)
- Ronald Ridout & Clifford Witting (1967): *English Proverbs Explained* (Pan Books) (中西秀男訳 (1973) 『常識としての英語の諺800』 (北星堂書店))
- Rosemarie Jarski (2006): *A Word from the Wise* (Ebury Press)
- John Simpson (1982), *The Concise Oxford Dictionary of Proverbs* (OUP)
- Fred Metcalf (1987), *The Penguin Dictionary of Modern Humorous Quotations* (Penguin Books)
- Leo Rosten (1994): *Leo Rosten's Carnival of Wit* (Plume Books)

J. B. Simpson (1988): *Simpson's Contemporary Quotations* (Houghton Mifflin) (隈部まち子訳 (1994) 『世界を動かした名言』 (講談社))
梅棹忠夫・金田一春彦他編 (1989) 『講談社カラー版 日本語大辞典』 (講談社)

編集主幹 小西友七・安井 稔ほか (1993) 『ランダムハウス英和大辞典』 (第二版) (小学館)
山岸勝栄 (編集主幹) (2003) 『スーパーアンカー英和辞典』 (第3版) (学習研究社)
(ジョーク集については省略した)